

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査（以下「全国学テ」）については、平均正答率は全ての教科において全国平均を上回り、平均無解答率は全ての教科において全国平均を下回るなど、一定の成果をあげた。また、生徒質問紙の調査結果から、これまでの取組により、読書時間は長くなってきていている。また、塾などの学習時間は長く、自ら予習・復習も行っている割合は高いものの、自ら計画を立てて学習することが苦手であることが伺える。自主的な学習への関心をどのように高めていくかが課題であると言える。
- 生徒質問紙の調査結果から、「学校の規則を守っていますか」、「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか」といった、いわば外向けの事柄には高い数値を示しているが、「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目については肯定的な回答の割合が低く、自己肯定感や自己開発能力を高めていく必要がある。
- 瞬発力、持久力、柔軟性など、幅広い体力の向上に努めるとともに、授業の各場面でその意義や目的について指導している。その結果、全国体力・運動能力、運動習慣等調査（以下「全国体テ」）において徐々に成果が表れてきている。ただし、前屈や投てきの項目に伸びる余地があり、とりわけ男子の運動能力を伸長することが課題である。全国体テの調査項目に合わせて的確な練習方法を模索する。
- 学校教育 I C T 活用事業のモデル校や拠点校（令和元年度～）として、研究と実践に一定の成果をおさめることができた。また、学校情報化認定委員会より、情報教育部門で公立学校初となる「学校情報化先進校」の認定を受けた。今後も大阪市のみならず全国に対しても、本校の取組を発信していく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・令和 2 年度の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。
【中間 85. 2%】 【最終 81. 8%】
- ・令和 2 年度の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
【中間 92. 6%】 【最終 93. 6%】
- ・令和 2 年度の校内調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 74% 以上にする。
【中間 70. 3%】 【最終 71. 1%】

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・令和 2 年度の校内調査において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。

【中間 81.8%】 【最終 84.7%】

- ・令和2年度の全国体テの調査項目における合計得点を男女ともに大阪市平均以上にする。
- 【中間 未確定】 【最終 市集計遅延】
- ・大阪市「学校教育 I C T 活用事業」先進的モデル校として、学校情報化認定委員会の「学校情報化先進校」の認定を受ける。【平成29、令和2年度に表彰を受けてすでに達成】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
【中間 100%】 【最終 100%】
- ・年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。
【中間 97.5%】 【最終 97.0%】
- ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
【R元 16人】 【中間 33人】 【最終 28人】
- ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。
【R元 2.0%】 【中間 3.2%】 【最終 3.7%】

学校園の年度目標

- ・年度末の校内調査において「先生は学級や学年の生徒を大切に思っている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
【R元 94.3%】 【中間 92.1%】 【最終 93.6%】
- ・年度末の校内調査において「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
【R元 96.8%】 【中間 97.5%】 【最終 99.0%】
- ・年度末の校内調査において「学校では自分から進んでいさつをしている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
【R元 95.9%】 【中間 94.6%】 【最終 92.1%】
- ・年度末の校内調査において「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫してある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
【R元 87.2%】 【中間 89.1%】 【最終 88.7%】
- ・年度末の校内調査において「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
【R元 92.8%】 【中間 95.1%】 【最終 96.1%】
- ・年度末の校内調査において「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。
【R元 70.7%】 【中間 59.1%】 【最終 57.4%】
- ・年度末の校内調査において「地震や災害などが起こった場合、どのような行動をとれば良いのかわかっている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。

【R 元 91.3%】 【中間 91.6%】 【最終 96.6%】

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、2年生において前年度より向上させる。

2年生【1年時3科119.7】 【今年度5科121.4】

- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、2年生において前年度より1ポイント減少させる。

2年生【1年時3科8.8】 【今年度5科12.7】

- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、2年生において前年度より1ポイント増加させる。

2年生【1年時3科56.1】 【今年度5科56.0】

- ・年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

【R 元 92.1%】 【中間 91.1%】 【最終 89.2%】

- ・全国体テの各種目（のべ16種目中）に関して、半数以上の種目で前年度のポイントを上回る。（全国体テが中止のため）

【R 元全国平均以上8/16=50%】 【R 2全国平均以上9/14=64%】

学校園の年度目標

- ・今年度の全国学テにおいて、平均点の対全国比を110%以上にする。
- ・年度末の校内調査において「授業に集中できている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【中間 83.3%】 【最終 88.2%】

- ・年度末の校内調査において「授業で学んだことを他の学習や普段の生活に活かしている」の項目において「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。

【R 元 79.9%】 【中間 76.4%】 【最終 81.6%】

- ・年度末の校内調査において「授業以外に、週当たり30分以上読書をする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。

【R 元 58.1%】 【中間 66.5%】 【最終 70.3%】

- ・年度末の校内調査において「体育の授業や部活動、地域のクラブなどで日常的にスポーツを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【中間 83.7%】 【最終 79.3%】

- ・今年度の校内体力テストにおける合計得点を男女ともに前年度大阪市平均レベルにする。

【前年度市41.0点】 【今年度点（未測定）】

- ・年度末の校内調査において「給食は、残さず食べるよう努力している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は全国学テをはじめ、各種調査が中止となり、対外的な具体的指標はないが、校内調査等においては、各教科や体力においてほぼ安定した状態を維持しており、生徒の勤勉さが伺える。学力面については、新学習指導要領の完全実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」を目標に定め、生徒の思考力・判断力・表現力の向上に取り組んでいる。大阪市学校教育 ICT 活用事業の拠点校指定を受け、大学教授の専門的指導を仰ぎながら全教員の研究授業を実施して、お互いの授業力を高める工夫をした。タブレットパソコンや映像装置を駆使した生徒の学習理解を助ける方法について研究を進めているところである。また、地域の教育力を活用すべく、学校元気アップ地域本部事業の協力を得て、「英語検定試験」の準会場運営をしていただき、生徒は英語に対する興味・関心、学習意欲を高めている。さらに、各定期考査の直前には、講師スタッフを手配していただき、自主学習会を開催することができている。或いは昼休み時間中に図書館を開館し、生徒の読書習慣の定着にご尽力をいただいている。

道徳教育の推進に関しては、「いじめのない思いやりあふれる集団づくり」を目標に取組を進めている。残念ながらいじめ事案が0とはなっていないが、粘り強い指導を継続している。また、指導方法についても、高圧的な指導ではなく、子どもに寄り添い気持ちを大切にしながら、他人の気持ちを思いやり、自らルールを守ろうとする姿勢を育てる工夫をしている。調査結果においても成果が見え始めている。

「健康・体力の保持増進」については、校内体力調査において、男女ともに「長座体前屈」、「反復横跳び」、「50m走」などが優れており、とりわけ女子は7項目中6項目で昨年を上回っている。体育指導や部活動指導、また地域の協力によるスポーツ指導の成果が現れつつある。

全体として、本年度の学校運営を通して安定した教育活動を展開することができた。個別の課題は残されているが、学校総体としては安定した状態を維持することができており、さらに地道な取組を進めていきたい。